

前回監視円卓会議での課題に対する報告等について

※ 前回会議において、複数の項目にわたって課題をいただきました。

御意見・御質問等をいただいた際に、当方の勘違いによる説明もあり、「排気による屋上床面の汚れ」「溶剤の排出（排気）」「熱媒油の放出」等が混同されたように思います。

これらを整理するため、下の表により整理をさせていただきました。

<活性炭について>

指摘等内容	回 答	備 考
○事業計画上の活性炭交換頻度は？	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年までは装置・機器等により隔年又は毎年、交換を行っていた。 ・平成 27 年からは活性炭交換要領に基づき実施。（アセトン吸着能力にて判断。） 	※別添資料 5-1
○活性炭交換の目安としている「アセトン吸着能」は溶剤も吸着することを前提としているのか、確認して説明。	<ul style="list-style-type: none"> ・アセトン吸着性能とは、その活性炭が吸収できるアセトン溶剤蒸気の吸着性能で、PCB 及び油分等の吸着量の指標となり、活性炭の性能を確認できる。 ・PCB だけではなく洗浄溶剤も吸着することを前提としている。 	
○活性炭の交換時期・頻度と産廃処理や無害化への払出実績との整合について説明。	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物及び無害化処理施設への払出量+施設内保管量をこれまでに交換した活性炭量と比較し、ほぼ同量であることを確認。 	
○活性炭に水銀が含まれていると思う。活性炭の払い出しの際に規制が掛かったりしないのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・想定される副資材すべての確認状況は別添資料のとおり 	

<洗浄溶剤について>

指摘等内容	回 答	備 考
<p>○オイルスクラバーでの「溶剤」捕集率は？ 計画上どれくらい見込んでいたのか？</p> <p>○運転上の調整で、溶剤をより捕集できるように調整できないのか？</p>	<p>・オイルスクラバーは設計上、溶剤を捕集することは見込んでいない。</p> <p>・ただし、実際には溶剤がスクラバオイルに捕集され蓄積されていくため、徐々に溶剤濃度は高くなっていく。そのため、適宜スクラバオイルを抜き出して新品を補充している。</p> <p>・また、PCBを効率的に捕集するため、夏場でもスクラバオイルを約 25℃程度に冷却している。(結果として、溶剤も捕集される。)</p>	<p>※資料 5-2</p>
<p>○ 溶剤の排出量及び「物理化学的な性質」を説明。</p>	<p>・PCBや洗浄溶剤など(PCB等)を含む排気をPCB等と親和性の高いスクラバオイルと接触させることで、スクラバオイルにPCB等を溶解させ捕集している。</p> <p>・別紙のとおり、法的には非該当であるが、VOC規制を該当させた場合、十分に低い値となっている。</p>	

<屋根の汚れについて>

指摘等内容	回 答	備 考
<p>○レイアウト図、写真を載せて説明すること。</p> <p>(『何が出ているか』というようなことも機会を得て調査すること。)</p>	<p>・屋根の変色している当初施設の2カ所、増設施設の1カ所は、いずれも重油炊きボイラーの排気口周辺である。</p> <p>・該当箇所を拭き取り、成分分析を実施した。</p> <p>・結論的には鉄分が固着した跡であった。</p> <p>・該当3箇所とも屋根面水勾配の下流側に位置しており、屋根に堆積した鉄粉が該当箇所に溜まり、ボイラー排気の温度及び湿分により酸化・固着したものと推定する。</p>	<p>※資料 5-3</p>